

1. 題材設定の理由

子どもたちはやがて大人になり、ほとんどの場合何かの職業に就くだろう。最高学年を控えている時期であることを考えたとき、そろそろ自分の将来や夢をみつめていってもよい年である。しかし、将来への夢や希望をなかなかみつことができない子も多い。また、学ぶ目標や意味をもてないまま、ただ良い点数をとるだけに熱心である場合も少なくない。将来への夢や希望をもっている場合でも、見た目のカッコ良さや華やかさだけにとらわれてしまっている子も多い。

これらの実態から本時は、夢や希望をもつことで、生活や学習に対する意欲を高め、自分の生き方に誇りや自信をもてるような児童を育成することを目的に本授業を設定した。したがって、小学生の段階で明確に「この仕事をやりたい。」と期待するものではなく、仲間とのかかわりを通して自己理解や他者理解を深めてほしいと考える。

そこで本時は、構成的グループエンカウンターの方法を使った。構成的グループエンカウンターとは簡単にいうと、リーダーのプログラムを通して作業・ゲーム・討議をしながらホンネとホンネの交流や心の触れ合いを深めていくことである。エンカウンターの利点は、体験学習を通して触れ合いや自己発見ができ、効率的かつ効果的な教育カウンセリングだからである。したがって、展開例は時間を区切りながら2人組から4人組へと話し合いを進めていくが、展開例を参考に、学級の実態に応じて話し合いの方法を工夫してもらいたい。

2. 指導のねらい

自分の夢を仲間と表現し合うことによって、将来への希望をもつことの大切さに気づくことができると同時に、仲間の夢にも共感できる。

3. 指導計画（全1時間）

| | |
|----|--|
| 本時 | ・将来の夢や希望について、保護者と相談するなど、考えさせておく。 |
| 事後 | ・将来への夢や希望をもつことの大切さに気づき、仲間の夢にも共感することができる。 |

| | 活動のねらい | 活動の内容 | 指導・援助の留意点 | 資料等 |
|--------|---|---|---|------------------|
| はじめの活動 | <ul style="list-style-type: none"> ①「大人になったらなりたい職業」を見て、自分の将来を考えるきっかけづくりをする。 今日の1時間の流れを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎①を見て、気づいたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしと同じ夢をもっている人がいるなあ。」 ・「まだ、将来について考えていないなあ。」 ◎「自分の将来を語ろう」の説明を聞く。ノート②を読んだ後に、教師がモデリング（自分が小学生だった頃の夢を語る）をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・まだ、夢がもてない児童については、事前に考えさせておく。 ・教師がモデリングしながら自己開示しやすい雰囲気をつくる。 | ノート① ノート② |
| | 課題：将来の夢や職業について考えよう。 | | | |
| 中心的活动 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考え方をありのままに書いたり、話したりする。 仲間のことを少しでも知ろうとして、関係の輪を広げ、自己理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の将来の夢や希望を書く。(③と④を記入する。) ◎2人ペアになって、自分の夢を発表する。(1分×2) <ul style="list-style-type: none"> ・一番の夢は、野球選手です。わけは、・・・。 ・将来は、警察官になりたいです。わけはお父さんが警察官で・・・。 ・みんなの話を聞いて、幼稚園の先生にも興味をもちました。どうしてかというところ・・・。 ◎4人組のグループになって、ペアの相手の夢をグループに伝えよう。(1分×4) <ul style="list-style-type: none"> ・田中さんは、警察官になりたいそうです。わけは、・・・。 ・高橋さんは、野球選手になりたいそうです。わけは、・・・。 ◎グループの話を聞いて、どんなことを思ったのか感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢をすっかりわかってくれてうれしかった。 ・田中さんが、警察官になりたい気持ちが伝わってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いたページを相手に見せながら話をするように指導する。 ・仲間の話をしっかり聞き、最後まで受けとめるようにする。 ・時間は、目安なので学級の実態に応じて変えていく。 ・忘れてしまった児童には、相手のページを見せてもらいながら話をするように指導する。 | ノート③ |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> 活動を通して、気づいたり感じたりしたことを、伝え合い、共有し合う。 仲間の言動から新たな自己に気づくことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎今日の活動で気づいたことや、この学習全体を通して感じたことがあったら、グループで交流する。(2分) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢に向かってがんばろうと思った。 ・仲間の夢を聞いて、～について素晴らしいと思った。 ◎グループで交流したことで、全体に伝えたいことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしも、みんなの夢や希望を聞いてとてもうれしく思いました。みんなの感想の中からいくつか紹介します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分への新たな気づきと、仲間への気づきの両面からせまっていきたい。 ・教師の考えの方向に強引にまとめようとしないで、子どもの気づきを大切にする。 | ノート④ |

《説話例》 — 児童の感想から —

(松井さんは、将来看護師になりたいと言っていました。その理由は「人の命を救える。」からだそうです。松井さんは、ふだんの生活から人に気を使ったり、困った人に手を差し伸べたりすることができるので、きっとできると思うし、がんばってほしいと思いました。野田さんは、デザイナーになりたいと言っていました。家でひまがあれば洋服をデザインしているそうです。わたしは、野田さんのなりたい夢を知れただけでなく、日常生活で努力をしていることもわ

かってよかったです。みんなもわたしの夢をしっかり聞いてくれました。特に高田さんはあなたならしっかりしているし、人のことも考えているのできっと素晴らしい先生になれると言ってくれてうれしかったし、これからもがんばりたいと思いました。)

自分の夢を語るだけでなく、仲間の夢も認めて応援しているところに値打ちがありますね。